

# 変わる公共交通

地域  
コミュニティ  
交通 編

本市では、人口減少、少子・超高齢社会の到来による、公共交通の衰退を防ぐため、鉄道を基軸としたバス路線の再編に取り組んでいます。今回は、電車やバスのない公共交通空白地域において、「コミュニティ交通の実現に向けて、取り組んでいる地域を紹介します。」

## 公共交通空白地域の悩み

本市では、将来にわたり公共交通を維持できるように、ことでん琴平線に2つの新駅をつくり、バス路線の再編に取り組んでいます。

一方で、地域の中に鉄道がなく、バスも運行していない、公共交通空白地域も存在します。

- そんな地域の悩みは、
- 高齢者の自動車事故があるたび、家族から免許の返納を勧められている
- 車が無いと生活できない
- コミュニティバスが欲しいなど、さまざまです。

## 「悩み」を「課題」に

最初に、「市民の皆さんに市政のこ

## 檀紙地区の取り組み

みんなの思いがつながり、コミュニティバスの実現に向けて取り組んでいる地域があります。

檀紙地区は、高速道路や国道が整備され、スーパーや病院もあり、自動車があれば便利に生活できる地域ですが、電車もバスも通っていない公共交通空白地域です。そこで、自分たちが本当に必要な、地域の実情にあったコミュニティバスを作るために、「檀紙地区コミュニティバス等導入検討協議会」を立ち上げました。

## 考えることは山積み…

支援制度を活用し、自治会加入者全員を対象に、アンケート調査を行いました。本市からのアドバイスを踏まえ、結果を分析し、ルートやダイヤ、運賃を地域で決めました。どこにでも行きやすく、運賃が安い



とを知ってもらうために実施している「市政出前ふれあいトーク」を活用し、公共交通に関する取り組みや今後のあり方について説明し、地域の皆さんに理解を深めてもらいます。

- 今までと同じようなルート・ダイヤ、運賃で運行するためには、多くの人が乗ってもらう必要がある
- バスを利用することに真剣に取り組んでもらう、地域の人も一緒に「乗る仕組み」を考えてほしい

地域では、ふれあいトークでの内容をもとに、勉強会を重ね、「悩み」を「課題」とし、これからの取り組みにつなげます。

## 課題を解決するために

公共交通空白地域における移動手段を確保するために、「コミュニティバス

バスは便利ですが、市から支援を受けるためには、「運行経費の2割を運賃収入で賄う」必要があります。そこで、檀紙地区オリジナルの「乗る仕組み」として、曜日ごとに運行ルートを変え、必要な経費を抑える工夫をしました。バスを走らせるためには、バス停も必要です。檀紙地区は、私有地へバス停の設置をお願いし、地域全体で、利用してもらいやすいバス停づくりにも取り組みました。

## 試験運行スタート！

今年10月1日、「檀紙地区コミュニティタクシー」は試験運行を開始。コミュニティセンターを中心に、生活に密着した目的地をつなぎます。ちょっとお得な回数券も作っています。

今回の試験運行期間に、「運賃収入2割」が達成できる見込みがなければ、運行は終了となります。限られた期間で目標を達成するため、挑戦は続きます！

## 挑戦する地域

仏生山や多肥地区周辺でも、地域が走るコミュニティバスについて、ふれあいトークを活用し、勉強し始めた地域もあります。地域の足について悩んでいる皆さん、まず話を聞くことから始めてみませんか？

を走らせたい地域に対して、取り組みや支援を行っています。

## コミュニティバス等導入検討支援補助制度

地域でのコミュニティバスに関するアンケート調査や勉強会を開催する費用などを支援します。

## (新)コミュニティバス等試験運行補助制度

コミュニティバスが地域の中で、長く運行できるように試験期間を設け、運行計画を確認できる制度を新しくつくりました。



市使出前ふれあいトークで公共交通について一緒に考えてみませんか？

- 高松モデルってな～に？
- 公共交通をお得に乗ろう
- どうすればバスを走らせられるか？

など、好きなテーマを選んで開催できます。これからの地域のことをみんなで考えてみませんか？詳しくは交通政策課へ。

お問い合わせ  
交通政策課 ☎ 839・2138